

事務事業評価シート 令和 2 年度事後評価・決算

事務事業名	コード 32800 常備消防事務費 (2) (住宅用防災機器等の普及啓発を除く)	予算科目	会計 一般	款	9	項	1	目	1	事業種別	<input checked="" type="checkbox"/> 主な事業 <input checked="" type="checkbox"/> 国土強靱化地域計画 <input type="checkbox"/> 新市建設計画 <input checked="" type="checkbox"/> 定住自立圏構想 <input type="checkbox"/> 主要事業
基本施策	27 消防・防災力の強化	根拠法令	消防法第1条								
施策の展開	59 救急救命体制の充実	戦略事業	250 医療機関との連携・救急業務の高度化の推進								
施策の展開		戦略事業	251 救命手当の普及啓発								

(1) 事務事業の概要

① 事務事業の期間	② 事務事業の内容 ※何をどのようにする事務事業なのか、市民が理解できるように記述する、行政用語は使わない	
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 <input type="checkbox"/> 平成 年度～ 年度～ <input checked="" type="checkbox"/> 開始年度不詳 <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 平成 年度～ 令和 年度まで	●医療機関との連携強化や高度救命資器材を整備するとともに、救急隊員の能力の向上を図る。【医療協議会】中央病院、旭消防、合同(匠瑛) 銚子、香取)、【事後検証】救命処置等特異事例をシートにまとめて医師と救命士で検証を行い、医師から指導を受ける。【救急救命士の養成】救命士養成所の研修を受講した後、国家試験に合格後救急救命士となる。 ●市民や事業所を対象として救急現場で即応できる応急手当や救命処置の普及啓発を推進し、事業所等へのAED設置を推進する。【救急講習】消防署内や学校、各事業所等で講習を行う。	
③ 事務事業開始の経緯・事務事業の現状	④ 事務事業に関する課題・環境の変化	⑤ 事務事業に対する住民からの意見等
・医療機関との連携強化のため、協議会等で協議を行う。 ・救命処置の事後検証を行い、救急隊員の能力向上を図る。 ・救急救命士の養成を行う。 ・救急講習を行う。	・救急救命士の養成については、資格者の異動や定年退職等があるため継続して行う必要があります。	・特になし

(2) コスト・特定財源の状況

① 事業費の詳細(2年度の決算) 単位:千円		29年度(決算)	30年度(決算)	1年度(決算)	2年度(決算)	3年度(予算)
1.救急事後検証委託料	119 中央病院への委託料	139	113	122	119	220
2.職員研修負担金	2,034 救命士養成所負担金及び国家試験受験料等	2,101	2,101	2,137	2,034	2,140
3.消防防災用備品費						
② 特定財源の内訳(2年度の決算) 単位:千円		事業費計(A)				
1.国庫支出金		2,240	2,214	2,259	2,153	2,360
2.都道府県支出金						
3.地方債						
4.その他						

前年度増減理由: 新型コロナウイルス感染症の関係により、一部が自宅学習(リモート)となり、養成所負担金が減ったため。

従事職員数: 常時 6人, 最大 7人 × 365日 = 延べ 2555人

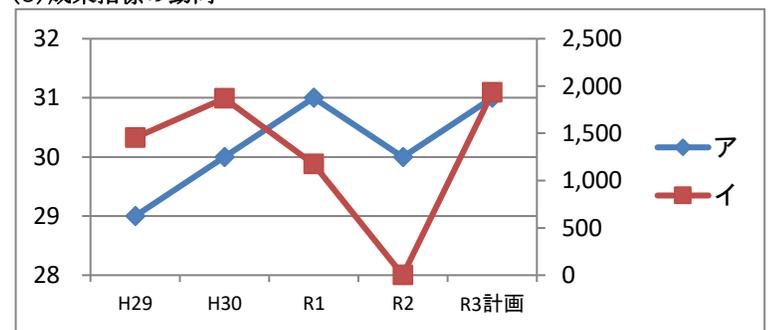
(3) 事務事業の手段・目的と対応する指標

① 主な活動	③ 活動指標名	29年度(実績)	30年度(実績)	1年度(実績)	2年度(実績)	3年度(計画)
2年度実績(2年度に行った主な活動) ・救急医療協議会の開催 ・事後検証の実施 ・救急救命士の新規養成	ア 救急救命士の新規養成者数	1	1	1	1	1
	イ 救急講習開催回数	59	67	53	0	70
② 対象・意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標名	29年度(実績)	30年度(実績)	1年度(実績)	2年度(実績)	3年度(計画)
対象: 消防職員 意図: 救命士養成所にて研修(約6ヶ月間)を行い国家試験に合格し、救急救命士となる。 対象意図: 一般市民 意図: 救急講習を受講し応急手当を身に付け、対応できる。	ア 救急救命士資格者数	29	30	31	30	31
	イ 救急講習年間参加者数	1,452	1,869	1,176	0	1,930

(4) 事務事業優先度評価の結果

① 成果優先度評価結果		② コスト削減優先度評価結果		
施策貢献度	成果向上余地	コスト比率		
	大きい	かなりある	ある程度ある	ほとんどない
	①			
普通				
小さい				

(5) 成果指標の動向



(6) 事務事業に関する評価

① 進捗状況	<input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 順調 <input type="checkbox"/> 概ね順調 <input checked="" type="checkbox"/> 停滞 <input type="checkbox"/> 実施困難									
【コメント】(停滞・未実施・実施困難の場合、その理由)	・救急救命士新規養成は毎年1名ずつ養成できており順調である。 ・救急講習については新型コロナウイルス感染症の関係から開催を中止している。									
② 成果の状況	成果指標ア	成果指標イ	数値増=成果向上	数値増=成果向上	比較	28年度	29年度	30年度	1年度	2年度
【コメント】(低下の場合、その理由)			<input type="checkbox"/> 向上 <input type="checkbox"/> 横ばい <input checked="" type="checkbox"/> 低下	<input type="checkbox"/> 向上 <input type="checkbox"/> 横ばい <input checked="" type="checkbox"/> 低下	ア	29年度	30年度	1年度	2年度	3計画
					イ	1	1	1	Δ1	1
						Δ478	417	Δ693	Δ1,176	1,930
③ 今年度取組事項(3年度に取り組む主な事項について記載)	時期	内容	今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 廃止・休止 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> その他()						
	・イベント開催時及び救急講習開催時	各種イベント等で救急講習、応急手当の必要性を広報し普及啓発を図る。受講者に技能維持のため、2~3年毎の再受講が推奨されている旨を啓蒙する。	・イベント開催時及び救急講習開催時	応急手当の必要性、重要性の普及啓発。技能維持のための反復受講の啓蒙。						